

令和6年10月4日

農政部

農業構造政策課 経営技術係

電話 :027-226-3068 内線 :3068,3069

第63回農林水産祭

須藤晃氏・須藤淳子氏が 内閣総理大臣賞(畜産部門)を受賞！

第63回農林水産祭（主催：農林水産省・公益財団法人日本農林漁業振興会）において、前橋市の須藤晃氏・須藤淳子氏（酪農）が内閣総理大臣賞を受賞することが決定しました。なお、須藤氏は、第53回日本農業賞の大賞（農林水産大臣賞）を受賞していることから選考対象となりました。

1 受賞者・部門

受賞者	須藤晃氏・須藤淳子氏
部門	畜産
出品財	経営（酪農）

2 受賞の取り組み

須藤氏は、前橋市で酪農を経営しており、「酪農のトランスフォームにチャレンジ」という経営理念を掲げ、新たな酪農経営を目指し、先進的技術導入、耕畜連携等による自給飼料の確保を進めるとともに、HACCP取得、アニマルウェルフェア、農福連携にも取り組み、地域酪農の持続と発展に繋がる経営を実践していることが高く評価されました。

*取組の詳細は別紙 農林水産省プレスリリース資料

3 表彰式

日時：令和6年11月23日（土）11時40分～13時（予定）

場所：明治神宮会館（住所：東京都渋谷区代々木神園町1-1）

4 農林水産祭について

農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深める等の目的で、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施されています。11月23日に明治神宮会館で行われる第63回農林水産祭式典において、天皇杯・内閣総理大臣賞・日本農林漁業振興会会長賞の三賞が表彰される予定です。

令和6年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
畜産部門

耕畜連携を通じて地域農業の持続発展を図る牛に優しい酪農経営

○氏名又は名称 須藤 晃・須藤 淳子

○所在地 群馬県前橋市

○出品財 経営（酪農）

○受賞理由

・地域の概要

前橋市は、群馬県の中央に位置し北に赤城山を望み、水稻、野菜、果樹、花き、畜産等の多様な農業が展開されている。農業産出額389億円、うち畜産7割、生乳62億円であり、乳用牛飼養戸数121戸、飼養頭数10,003頭で県の酪農の中心地である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

須藤晃氏は、平成15年に二代目として牧場の経営移譲を受け、現在は経産牛114頭、育成牛70頭を飼養し、早くから耕畜連携に取り組み粗飼料自給率80%を確保している。また、農場HACCP認証による安全・安心な生乳生産と質の高いチーズ製造に取り組みつつ、アニマルウェルフェアを重視した牛に優しい酪農を実践している。

・受賞者の特色

(1) 耕畜連携による地域循環型農業とアニマルウェルフェアを重視した牛群管理

- ① 飼料用トウモロコシ12ha栽培に加え、耕種農家と連携し飼料用稲・麦ホールクroppサイレージを確保して粗飼料自給率80%を達成し、臭気を感じない良質完熟堆肥を耕種農家へ提供することで地域循環型農業を構築している。
- ② HOTEL 須藤牧場をコンセプトとしたストレスの無い優しい牛群管理とIoT技術導入による繁殖成績向上と疾病低減、農場HACCP認証により、安全・安心な生乳を1頭当たり10,748kg生産している。

(2) 6次産業化と農福連携、後継者育成への取組

飼料価格高騰を乗り切るために開始したチーズ製造では、各種コンクールで受賞するほど人気が高く、酪農経営を支えている。また、酪農教育ファームの認証を受け、特別支援学校生徒などの受入れ・雇用を通じた農福連携や酪農家を対象とした勉強会を組織し、地域の後継者育成に取り組んでいる。

(3) 女性の活躍

淳子氏は、従業員給与計算や農場の税務処理のほか哺育等の農場内作業に加え、チーズ製造・販売を統括し、事務・事業推進の両面で活躍している。

・普及性と今後の発展方向

須藤牧場は、先進的技術導入を図り、耕畜連携等による自給飼料の確保を進め、アニマルウェルフェアを重視して牛に優しい経営を展開し、消費者に信頼される生乳生産、さらには地域酪農の持続と発展に繋がる経営に取り組んでいる。企業との連携にも積極的であり、酪農経営の優良モデルとして発展と普及が期待できる。